

平成三十一年度富山県立大学入学式式辞

平成三十一年四月四日(木)

アイザック 小杉文化ホール ラポール

今日ここに迎えた563名の新入生の皆さん、そして、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。私たち教職員は、心から皆さんのご入学を歓迎いたします。

また、本日は、石井富山県知事様、笹岡富山県議会経営企画委員長様をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、平成三十一年度富山県立大学の入学式を挙げることは誠に喜ばしく、教職員を代表し、関係の皆様方に、心より御礼を申し上げます。

富山県立大学では、この4月、新たな学部「看護学部」に、第1期生123名を受け入れることができました。1期生の皆さんに期待し、われわれ教職員も全力で新学部の運営を行います。

工学部、看護学部に入学者は、入学試験に見事合格され、めでたく本日の入学式を迎えられました。こうして選ばれた皆さんは、自ら研鑽に励み、地域、そして日本、世界の発展を担う人財として立派に成長し、社会に貢献するものと期待しています。

本学は、平成2年に、日本海側で初の工学系の大学として創設され、①学生を大きく伸ばす教育力の高い大学、②未来を志向した高度な研究を推進する大学、③広く開かれた地域社会に貢献する大学を基本目標として、建学以来、富山県の知の拠点となるべく、地域の課題やニーズに的確に応えるとともに、優れて世界的な研究も展開しており、併せて学生の能力を大きく伸ばす行き届いた教育を行っています。こうしたことにより本学が「地域に貢献する大学」や「就職に強い大学」として高い評価を受けていることは、皆さんよくご存知のことと思います。

その後、平成27年4月の公立大学法人化に伴い、県内産業への人材育成と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう、平成28年4月には、機械システム工学科と知能デザイン工学科の2学科で、定員を10名ずつ増員しました。

平成29年4月には、情報システム工学科と環境工学科の2学科について、名称をそれぞれ電子・情報工学科と環境・社会基盤工学科に変更するとともに定員増を行いました。また、工学部では全国初となる医薬品工学科(定員35名)を新設し、これらにより入学定員を平成27年度に比べて100名増やし、330名といたしました。

そして、本年4月に看護学部を新設して工学系単科大学から脱皮したところであり、医療・介護分野においても優秀な人材育成に努めてまいります。また、こうした定員増に対応するため、射水キャンパスにおいて新校舎を建設しており、来年4月から供用開始することとしています。

こうした拡充が計画どおり進みましたが、石井富山県知事様はじめ県関係者、県

議会並びに県民の皆様の温かいご支援のおかげです。それに応えるためにも、本学では、数々の行き届いた教育を実践しています。

例えば、工学部では、1年次の対話型の教養ゼミに始まり、4年次の卒業研究に至るまで、すべての学年で少人数の学生と教員とが触れ合う場を用意しています。さらに、全学年を通して、環境リテラシーを育む環境教育プログラム、そして学生の自立を促すキャリア教育を実施しています。

また、地域産業の振興や超高齢社会への対応などの課題について、企業や自治体など地域の方々と連携し、学生が自ら主体性をもって具体的な課題を見出し、その解決に向けて努力するという授業に取り組んでいます。

このような場や体系化されたプログラムにより、専門知識だけでなく、それを活用するのに必要となる広い視野やコミュニケーション能力、正解のない問題に取り組んで行く力と使命感などが養われるものと考えています。

また、看護学部においても工学部と同様に、少人数形式で行う共同学修やキャリア形成を目指したゼミなど、少人数教育に力を注ぐとともに、工学部の教員との連携によって、工学的な視点を取り入れた看護学を学ぶこととしております。

本学藤井澄二初代学長は記念すべき第1回入学式で、「本学が学術研究によって社会や産業の発展に大きく寄与し、日本国内はもちろん、国際的にも高い水準の大学として認められるものとなるよう最善の努力を払うとともに、学生諸君に濃密かつ特色ある教育を行い、諸君が大学で学んだことを終生誇りとし、また満足感をもって回顧することのできるような大学にしたい」と述べられ、開学当時の熱い意気込みが伝わってきます。

これは、開学以来30年近く経過した今でも、私が皆さんに申し上げたい言葉そのものです。違うとすれば、当時は、この言葉が意気込みや期待感にすぎなかったものが、本日は、卒業生の実績、歴代の知事、県議会や県民の方々、経済界の方々、教職員等々、多くの皆様のご支援により、着々と教育、研究、地域貢献で成果が積み上げられた結果、私は自信を持って、皆さんに同じ言葉を贈ることができるということです。

さらに、藤井初代学長の建学の意気込みに付け加えて、私の意気込みとして、皆さんがオリジナリティとインパクトのある仕事や研究ができる力を身につける大学にしたいと考えています。

皆さんは高校まで、「学ぶ」という教育をかなりの時間受けてきたと思います。「学ぶ」ということばは、「まねぶ」「まねる」と同じ語源といわれ、先人のなした仕事のコピーを身につけることを意味します。たとえば、先人は力と加速度の関係をニュートンの運動方程式という、再利用可能な価値のある簡潔な知識に昇華し、これをもとに、演繹により航空機の設計ができるようになりました。皆さんは、ニュートンの運動方程式を記憶し、これを使って力学の問題を解くという、先人のコピーを身につける勉強をしてきたわけです。しかし、コピーという効率的な方法を身につけると、自分自身が解決すべき課題に直面したときに、文献やインターネットの情報を集めて、そのコピーに沿

って解決することで満足しがちになります。待ってください。皆さんは、もっと素晴らしい解決を考えつく力をもっています。大学あるいは社会で求められる人材は、学ぶことに長けていることにもまして、閉塞感を打破するために、日本の中であるいは国際社会の中で、オリジナリティとインパクトのある仕事や研究能力が求められます。ノートの落書きの文字や絵も、人類の歴史が始まって以来のオリジナルな仕事になり得ますが、社会にどれほど貢献できるか疑問が残ります。一方、少子高齢社会の課題を始め、多様な社会課題の解決が喫緊の問題となっていますが、その解決につながる、インパクトをもつオリジナルな仕事は尊敬されるし充実感も競争力もあります。さらに、一度、オリジナリティとインパクトのある仕事や研究の成功体験をすると、自分の専門外や不得意分野でも、成功体験を生かして取り組み、解決の糸口を見つけることができます。

富山県立大学とその教職員は、皆さんが卒業後にオリジナリティとインパクトのある仕事や研究ができるよう、授業や研究の環境をさらに整備し、皆さんが社会で活躍するよう支援をしております。

皆さんは、それぞれの志をもって本学に入学されたことと思います。その初心を決して忘れないでください。皆さんの前途にはたくさんのやりがいのある仕事が待っています。皆さんの将来には明るいものと私は信じています。初心を忘れず、社会に積極的に貢献するという夢や志を持って、これからの大学生活を有意義に送られることを、心から祈念し、式辞といたします。

平成31年4月4日

富山県立大学 学長 下山 勲